



## 巻き貝に、いぼいぼのある虫が入りこんでいたのは何なの

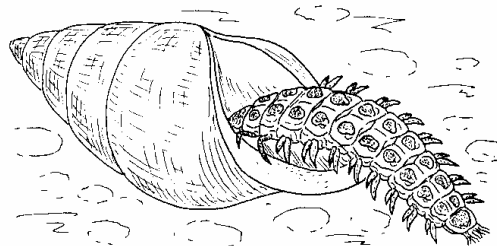
### カワニナを食べているホタルの幼虫

巻き貝に入りこんでいた、いぼいぼがある虫は、ホタルの幼虫でしょう。ホタルは、卵も幼虫も光ります。手で影を作ったのぞいてみて、いぼいぼのしっぽの先が光っていたら、ホタルの幼虫です。流れのゆるやかな川の砂底にすんでいるのは、ゲンジボタルの幼虫で、えさは、カワニナという巻き貝です。

ゲンジボタルは、水ぎわのコケに卵を産みつけます。卵は1か月ぐらいでかえり、2ミリメートルぐらいの大きさの幼虫は、すぐ川に入ります。そして、自分の体の大きさにあったカワニナをえさにして、大きくなっていきます。川の中で、およそ10か月をすごした幼虫は、春の雨の日の夜、いっせいに川岸に上陸します。上陸した幼虫は、土の中でさなぎになります。およそ50日後、さなぎから成虫になって土の中から出てきます。

### ホタルの光は、メスへの合図

ゲンジボタルの飛び回る時間は、日がしずんだ後の1時間くらいと決まっています。成虫になったホタルは、数日で死んでしまいます。短い間に、オスは、メスを見つけ、卵を産んでもらわなければなりません。夜、ピカッ、ピカッと光が強くなったり弱くなったりしながら飛ぶホタルの光は、メスへの合図なのです。同じゲンジボタルでも、西日本と東日本にいるものでは、光り方がちがうことが知られています。ヘイケボタルの光り方もちがっていますので、仲間をまちがえることはありません。(監修・中山 周平)



カワニナを食べるゲンジボタルの幼虫

